

平成25年第4回定例会 議会報告

(平成25年 11月27日～12月18日)

かみくら

秦野市議会議員

神倉ひろあき



●11月27日から始まった、第4回定例会は、提案説明、議案審議、一般質問、常任委員会、議会運営委員会、議会活性化特別委員会と続き12月18日、委員長報告をもって終了しました。私は、**副議長のため、一般質問は出来ません**ので、所属する**文教福祉常任委員会における私の質問**をご報告いたします。

★1. 小・中学校の冷暖房設備について・・・国の元気臨時交付金で本年度設置出来たものを！！

市当局の、あつてはならない国の交付金の認識不足により、財源の数億円を失った事になった！！

国は、本年、地方の資金調達に配慮し、経済対策の迅速かつ円滑な実施を図るため、今回限りの特別の措置として、平成24年度補正予算において「地域の元気臨時交付金(地域経済活性化と雇用の創出を図る事を目的)」を創設した。・予算規模：1兆3,980億円・交付対象：都道府県、市町村

この「地域の元気臨時交付金」の対応に、なぜ適正を欠いたのか、私が所属する文教福祉常任委員会において「小・中学校の冷暖房設備」を基に質しました。

質問1 小・中学校の冷暖房設備の今後の整備計画はどのようなか。

回答 平成25年度は、中学校の実施設計。平成26年度は、中学校(9校)

の工事・設置、小学校の実施設計。平成27年度は、小学校(13校)の工事・設置である。

質問2 国の「地域の元気臨時交付金(地域経済活性化・雇用創出臨時交付金)」にある**文部科学省の学校施設環境改善交付金の中身**を知っているのか。知っているとしたらどのように活用したのか。

回答 知っている。

学校の体育館LED,幼稚園の公共下水の引き込みなどである。

質問3 本市が、元気臨時交付金を活用した場合、総事業費の1割5分程度で事業が執行できた。国庫補助金を含めると国が、8割5分程度の財政負担をしてくれるというメリットの高い交付金である。小・中学校の冷暖房設備の設置は、元気臨時交付金の**文部科学省の「学校施設環境改善交付金」**に合致しないのか。

回答 合致している。

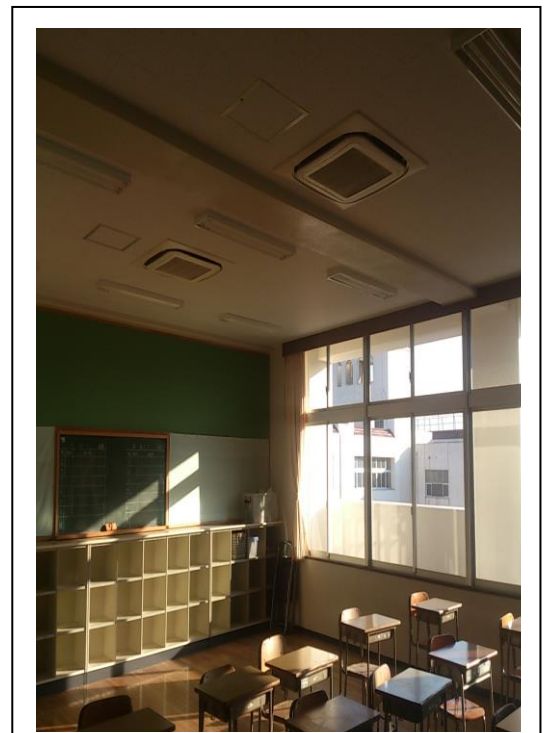
質問4 合致しているのに、何故、元気臨時交付金を活用して**小・中学校の冷暖房設備の設置**をしないのか。

回答 本年1月に、文部科学省から対象事業がないかと照会があった。

検討の中では、25年度中に事業が完了することが条件であった。

中学校の冷暖房設備は、平成25年度に実施設計の予定であり、

整備方法などは決まっていなかったため検討しなかった。



質問 5 中学校の冷暖房設備の予算計上は、前年の 12 月に決まっていた。

厚木市では、本市と同様、平成 25 年度：実施設計、26 年度：設置工事という計画だったが、元氣臨時交付金に小・中学校の冷暖房設備が、合致するため、計画を前倒して、本年度に、設計・施工一括方式を採用し全ての中学校に冷暖房設備が、設置されることとなった。事業費は、約 5 億 5,380 万円の所、実質負担額約 1 億 4,370 万円

(厚木市の財政力指数が高いため、3 割負担) と、国が、約 4 億 1,000 万円負担してくれた。

秦野市の場合、小・中学校の冷暖房設備・設置工事見込は、11 億円であるから、元氣臨時交付金を活用した場合、財政力指数が低いため、1 割 5 分程度として、本市の実質負担額は 1 億 6,500 万円ですむ。中学校分だけとしても事業費 4 億円のところ、元氣臨時交付金活用で、6,000 万円で済む。厚木市は、今年度中に、中学校の冷暖房設備を完成させるため、冬休み、土曜日日曜日を使って工事をする予定であるという。

財政力の高い厚木市が、迅速に対応し、財源の確保、市民生活の向上やニーズに努めている。

本市は何をやっているのか！！ 情けない！！ 本市の情報不足、元氣臨時交付金の中身を把握していないと共に**血税を自分のお金と思って運営していない証である**。こうした実情に、教育部長は、どうお考えか。

回答 少しでも財政負担を軽減すべく、体育館の LED も前倒しをして設置するようにした。平成 25 年度中に完成させる事が条件の交付金は、本市では 25 年度に実施設計、26 年度に設置工事計画なので採用できないと判断した。

意見・要望 この問題は、真に多様化するニーズであり、トップマネジメントを発揮する案件である。

この交付金の統括は、財務部と政策部になると思うが、**各部課の連携や情報共有が取れていない**。更に、

元氣臨時交付金の中身・スケールメリットを、しっかり理解していない証である。また、この交付金事業は、あらゆる省庁に及んでおり、本市の様々な事業に合致し、予算配分を得る事が可能であった！

厚木市は、元氣臨時交付金を最大限活用し、様々な事業に合致させ、中学校の冷暖房設備を含め 10 億円を超える額の交付金を得た。また、隣の伊勢原市では、3 億 1,000 万円の元氣臨時交付金を得ている。

秦野市は、4 事業合わせて、たった 5,100 万円である。厚木市の 20 分の 1 の交付金では**都市間競争の敗北**であり、**行政の怠慢であると言わざるを得ない！！ ガバナンスに問題がある！！**

今後このような失態がないよう緊張感を持ち、各部が連携を図り、市政運営に努めて頂きたい。

★2. 女性教員の管理職登用について

質問 1 国の男女共同参画推進本部が、女性管理職を増やすため、加速プログラムを作ったのは、7 年前の事である。

県では、「かながわ男女共同参画プラン」の主要施策の 1 つに管理職への女性登用の推進がある。本市でも「はだの男女共同参画プラン」において同様の趣旨が述べられている。また、**教員の女性の占める割合からすれば、もっと女性管理職の登用を図るべきである**と平成 23 年第 3 回定例会で提言した。その後の状況、小・中学校の女性管理職の数と割合を直近 3 年間の校長と教頭を分けてどのように変化したのか。

回答 平成 23 年度校長 小学校 男 10、女 3。中学校 男 9、女 0。教頭 小学校 男 9、女 4。中学校男 9、女 0
平成 24 年度校長 小学校 男 11、女 2。中学校 男 8、女 1。教頭 小学校 男 9、女 4。中学校男 9、女 0
平成 25 年度校長 小学校 男 12、女 1。中学校 男 8、女 1。教頭 小学校 男 10、女 3。中学校男 9、女 0

質問 2 平成 24 年度以降の数値を見ても、あまり変化がなく女性管理職の登用が進んでいない。昨年から、教頭の管理職登用試験が実施されているが、応募状況を、小・中学校別、男女別に伺う。

回答 平成 24 年度は、小学校男 7、女 2。中学校男 11、女 0。
平成 25 年度は、小学校男 3、女 1。中学校男 9、女 0。

要望 アベノミクス 3 本の矢、成長戦略の中で、「女性が輝く日本」の具体的な政策目標として指導的地位に占める女性の割合を 2020 年までに 30%程度にするというものがある。優れた能力と意欲をもつ女性の教員は多数いる。こうした先生が、自信をもって管理職を目指す環境を整えるのが、教育委員会であり、現管理職の役割でもある。教育委員会は、いろいろな機会に女性教員に注目すると共に、**総括教諭へ女性を積極的に登用する等により管理職登用試験に女性教員が積極的に応募できるよう職場環境づくりに努めて頂きたい。**

